

2026 年 6 月 12 日  
東日本旅客鉄道株式会社  
大 宮 支 社

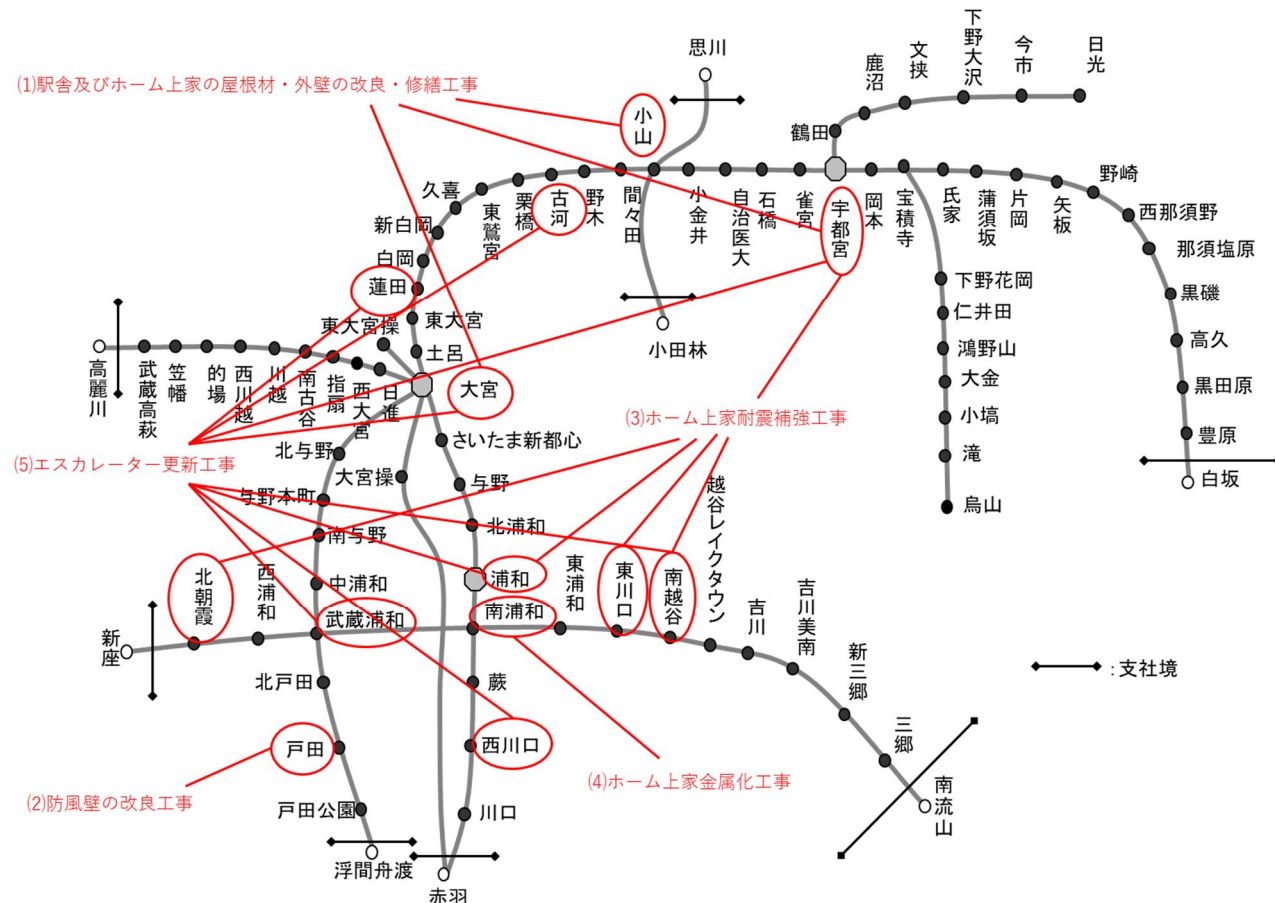
## より安全に安心してご利用いただくための 駅改良工事の実施状況について

JR東日本大宮支社では、安全・安心な駅をご利用いただくため、管内の各駅において設備の改良・修繕工事を計画的に実施しています。

現在、駅舎やホーム上家の屋根材・外壁の改良・修繕のほか、防風壁の改良などを実施し、安全性と耐久性向上に取り組んでいます。

今後も設備の適切な更新・維持管理を通じて、安全で信頼性の高い駅づくりに取り組んでまいります。工事期間中は、ご利用のお客さまにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

### 1 大宮支社管内エリア図・工事実施箇所



## 2 主な工事概要

### (1) 駅舎及びホーム上家の屋根材・外壁の改良・修繕工事

対象駅：小山駅、大宮駅、宇都宮駅

概要：外装材の補修・更新等を実施し、耐久性および安全性の向上を図っています。耐久性の高い材料の採用や、外装材を固定するボルト等に緩まない固定方法を採用することで漏水等の弱点箇所の解消を図ります。

工期：小山駅 2022年6月～2028年3月（予定） ※ホーム上家の改良は施工済  
大宮駅 2024年3月～2028年3月（予定）  
宇都宮駅 2024年3月～2028年3月（予定）

《参考》過去の施工事例



施工前（小山駅）



施工後（小山駅）



施工前（那須塩原駅）



施工後（那須塩原駅）

※屋根材・外装材の接写は同仕様の他駅の写真です。

### (2) 防風壁の改良工事

対象駅：戸田駅

概要：防風壁を改良し、安全性の向上を図っています。ひび割れや下地の腐食等の変状がある箇所を対象に張り替えを行っています。

工期：2025年10月～2028年12月（予定）



施工前



現在（2026年5月時点）

(3) ホーム上家耐震補強工事

対象駅：北朝霞駅、東川口駅、南越谷駅、浦和駅、宇都宮駅

概要：大規模地震に備え、ホーム上家の耐震補強工事を実施しています。溶接が不要となる新工法を採用することで施工性を向上させ工期短縮を図っています。

工期：2026年4月～2027年3月（予定）



施工前（東川口駅）



一部施工後（東川口駅）

(4) ホーム上家金属化工事

対象駅：南浦和駅

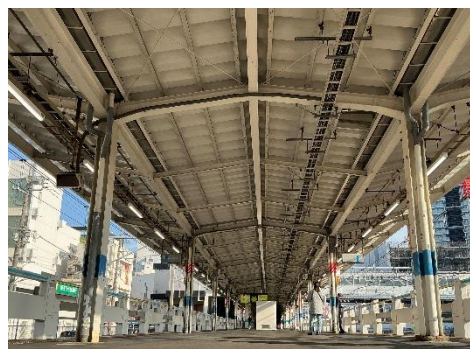
概要：ホーム上の屋根をスレート製から金属製に取り替え、耐久性の向上を図っています。葺き替えにあたっては、耐久性に優れた仕様への更新を行っています。

工期：2026年4月～2027年3月（予定）

《参考》過去の施工事例



スレート製屋根（施工前）蕨駅



金属製屋根（施工後）蕨駅

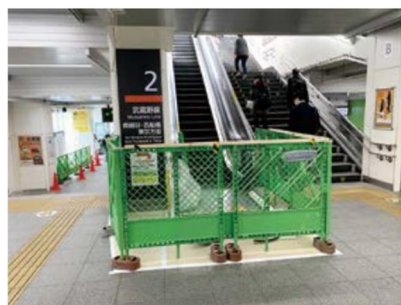
(5) エスカレーター更新工事

対象駅：大宮駅、蓮田駅、古河駅、西川口駅、浦和駅、宇都宮駅、南越谷駅、武蔵浦和駅

台数：8駅22台

概要：駅構内エスカレーターの部品を更新しています。ブロック修繕方式を採用することにより、工期短縮やお客さまへの影響を最小限にしています。

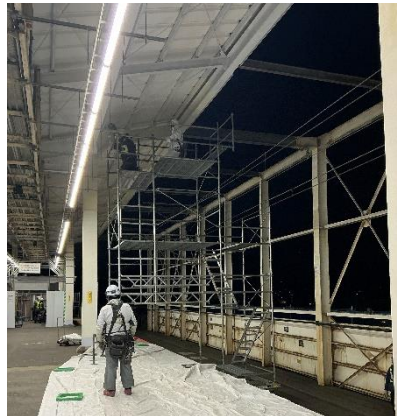
工期：2025年10月～2027年3月（予定）



工事イメージ

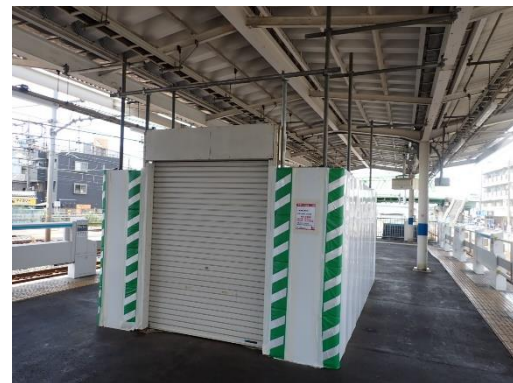
### 3 その他

- 一部線路に近接した箇所やホーム上での作業となるため、お客さまと作業員の安全確保および列車の安全運行の観点から、主に夜間に施工しています。



夜間作業

- 資材や機材の仮置き場所をホーム上に設けることで搬入出作業を効率化し、工期全体の短縮を図っています。仮置き場所の確保に伴い、お客さまにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。



資材・機材の仮置き場

- エスカレーターの設備更新では、従来は約20年に一度、全部品を取り換える老朽取替工事を行っていましたが、長期の停止期間が必要となるため、部品をブロック毎に取替えるブロック修繕工を採用し、連続する停止期間を短縮しています。また、ブロック化することで作業範囲が縮小し、仮囲いの範囲を縮小させることができるため、お客さまへの影響を最小限にしています。

| 従来方式（全撤去・新設）                                                                                                  | 新方式（ブロック修繕）                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>全部品を一度に取替</b></p> <p>20年/1回リニューアル更新実施</p> <p>【手摺ブロック】 【踏段ブロック】<br/>【意匠ブロック】 【制御ブロック】</p> <p>組立品一式据付</p> | <p><b>ブロック毎に取替</b></p> <p>【手摺ブロック】<br/>取替目安7年</p> <p>【意匠ブロック】<br/>取替目安任意<br/>(損傷や汚れによる)</p> <p>【踏段ブロック】<br/>取替目安12年</p> <p>【制御ブロック】<br/>取替目安15年</p> |
| 従来方式（全撤去・新設）の課題                                                                                               | 新方式（ブロック修繕）の改善点                                                                                                                                     |
| ①長期間の使用停止（約30～45日間）                                                                                           | ①連続停止期間の短縮（約9日間）※ブロック毎で停止期間は変動あり                                                                                                                    |
| ②銅板製仮囲いによるお客さま流動の阻害                                                                                           | ②プラスチックフェンス製仮囲いによるお客さま流動への柔軟な対応                                                                                                                     |
| ③部品の耐用年数に関係なく、本体経年約20年で全て取替                                                                                   | ③部品の経年に応じた適切な取替（トータルコスト削減）                                                                                                                          |

#### 4 今後について

今後も鉄道設備の計画的な更新・維持管理を通じて、安全で信頼性の高い輸送サービスの提供に努めてまいります。